

令和 6 年 9 月 27 日

報道機関 各位

「ひもブレース」による構造補強を 富山大学藪谷研究室 学生シェアハウスくめいまプロジェクト で実践します

令和 6 年能登半島地震により、旧耐震の木造家屋は今後の地震に備えた耐震補強が必要とされています。しかし、専門的な知識が求められることなどから、対策が進んでいません。

富山大学芸術文化学部藪谷研究室は、誰もが簡単に施工可能な高強度アラミド繊維の「ひもブレース」を用い、学生シェアハウスくめいまにて構造補強ワークショップを行います。今回のワークショップの目的は、多くの方に耐震補強に興味を持ってもらうこと、「ひもブレース」の魅力を感じていただくことです。

また、開発者の高橋治先生(東京理科大)と自身のプロジェクトで「ひもブレース」を採用・実践された常山未央氏(mnm)にお越しいただき、直接ご教授いただきます。

当日は構造補強に興味のある大学生や地域住民が実際に施工を行います。

つきましては、本件について取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

記

■日時 令和 6 年 9 月 28 日 (土) 10 時 00 分～

■場所 富山県氷見市久目 2270

〔ポイント〕

- ・氷見市久目地区で築約 50 年の空き家を学生たちでシェア居住しながらセルフリノベーションを行うプロジェクトが始まっています。
- ・令和 6 年能登半島地震を受け、耐震補強の必要性が高まっています。木の筋交などの施工は一般の方には難易度が高いですが、「ひもブレース」は、誰でも施工可能な構造補強の方法です。
- ・開発者の高橋治先生(東京理科大学)、「ひもブレース」の採用・実践経験を持つ建築家の常山未央氏(mnm)に直接ご指導いただきます。

※詳細は次ページをご参照ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

富山大学五福高岡地区事務部 芸術系総務部・学務課 (地域連携担当)

TEL : 0766-25-9117 Email : tiikiko@adm.u-toyama.ac.jp

学生シェアハウス くめいまプロジェクト

富山大学藪谷研究室が「ひもブレース」による
構造補強ワークショップを開催します

「ひもブレース」

従来の構造補強である構造用合板を用いる方法や木の筋交を入れる方法は、専門的な知識が求められ、施工の難易度も高いため、自分たちで行うことは困難です。しかし、「ひもブレース」は鉄筋9mmの半分の引張強度をもつ高強度アラミド繊維のひもを2重に掛け、初期張力を保つための金物を締めるだけで施工できることから、自分たちで構造補強を行う際に適した方法であると考えられます。また、ひもの持つ柔らかさにより、デザイン性も優れています。

今回のワークショップでは、多くの方に耐震補強に興味を持ってもらうことを目的に、「ひもブレース」の施工を実際に行い、その魅力を体感していただきます。

～学生シェアハウス くめいまプロジェクト～

氷見市久目地区にある空き家に学生たちでシェア居住しながら、セルフリノベーションを行うプロジェクトです。学生や地域住民の参加を募り、ワークショップ形式で改修を行っています。今年度から始動し、片付けワークショップや、床断熱・フローリング張りワークショップを開催しました。2年計画で行い、地域の方々や学生、地域外からの訪問者が交流できる「くめいま」の創出を目指します。

そして今回は、第2回目の改修ワークショップとして構造補強ワークショップを行います。

従来の構造補強方法

